

ハグロトンボ

漢字で書くと羽黒蜻蛉。安直な命名に見えますが、オハグロトンボの別名もあり、そんなニュアンスも込められているようです。

色の特徴は胴体にも。胸部と腹部が青緑で、金属光沢を放ちます。ただし、こちらは雄だけの特徴。雌の胴体はくすんだ黒です。



このトンボ、以前ご紹介したチョウトンボと同じように、ヒラヒラと飛びます。そしてもう一つ、トンボらしくない特徴があります。それは、日陰に集まること。

日なたに出てこないわけではありません。幼虫が育つ場所はエビモなどがゆるめく小川や水路なので、成熟した成虫は明るい水面で産卵しています。けれども、羽化から性成熟までには何週間もかかります。その間、ハグロトンボはもっぱら日陰に集まって過ごすのです。暗い青春時代とでも言いましょうか。

日陰者のはずのハグロトンボを、今年は芝生広場でよく見かけます。この夏は、どこでも日陰と言うことでしょうか。日照不足は野菜の値段をつり上げるだけでなく、昆虫の行動まで変えてしまうようです。